

1 学校教育目標

○進んで学び深く考える子供 ○ 思いやりをもって行動する子供 ○ 体をきたえやりぬく子供

2 めざす学校像、児童像、教師像

○学校像	○ 子供一人一人の可能性を引き出し、伸ばせる学校 ○ 地域・保護者・子供から信頼される学校
○児童像	○ 勤勉な子供 ○ 夢を育む子供 ○ 他者を思いやる子供 ○ ルールを守り、礼儀正しい子供
○教師像	○ 教職としての専門性を高める教師 ○ 自他の人間性を高める教師 ○ 組織で教育を実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

≪学校の現状≫

[よさ] 昨年度10月に10周年の周年式典行事をコロナ禍中に挙行。地域の誇りとしての学校として児童、保護者・地域の方々を迎え入れられた内容であった。更に本校の教育活動の実績を高評価していただいていることを教職員は感謝し真摯に受け止めている。この評価が子供たちと共に学ぶ組織として日々の活力と充実感の源となっている。例年、実施されていた保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携は交流という形では叶わなかったが、教員側としては15年間の継続した連携を深め、結果、光が丘地域の核として情報等を発信することができた。周年行事により更に、教職員の「地域と共に児童を育成する積極性」が向上し、児童の学力の定着、向上、体力向上にもその成果が表れ始め、区内小中学校に向けて、その成果を発信できる環境が整ってきた。

[課題] 統廃合後の教員異動が一段落を迎えたが、異動の後に配置された教員のほとんどが本校に採用された新任が大部分を占め教員年齢層が下がっていることから、教員の育成と本校の教育活動の資質を維持することが最大の課題である。児童の基礎学力・基礎体力を定着させるため教職員の資質を高めることを。学校経営方針の具現化に向けて組織力を強化し、ミドルリーダーの育成及び若手の育成を図り、初等教育の礎に携わっていることを踏まえ教職員一人一人が主体的に関わりOJT、Off-JT を駆使して取り組む。特別支援（ひかりルーム）との連携、巡回指導教員、スクールカウンセラー、特別支援専門員との関わりをもって、児童一人一人に寄り添いながらしっかりと児童の困り感を認識し、適切な経営を行う。

◎児童について

[よさ] 全体的に素直で明るく、授業は真剣に取り組む。諸活動・諸行事は積極的に活動している。

[課題] 社会情勢が児童の教育環境を脅かしている中、「みどりの風吹くまちビジョン」「練馬区教育・子育て大綱」を推進する必要性が高い。自分の思いや考えを積極的に伝える力、言語活動を通じて表現する力が依然、不足ぎみな児童が各学年に若干名在籍、この割合を全校で一桁台に減少させる。保育園・幼稚園から入学する児童に対し適応指導の充実を図り、児童同士の好ましい人間関係を構築する。生育段階に対応してキャリア教育の推進、学力、体力の向上を図る。いじめ問題は皆無ではない。常日頃より、児童の動向を把握し、いじめ絶滅、予防・防止策をとる。支援が必要な児童に対して特別支援委員会を中心に連携を深めしっかりと児童を育成していく。新しい教具（タブレット端末）の導入に際し、その指導を保護者を含めて実施する困難な状況をしっかりと踏まえて取り組んでいく。

◎教師について

[よさ] 一人一改革を提唱し、個々の教員が可能性を伸ばす研鑽に努め、幼保小中連携や校内研究を基盤に若手の人材育成に努め加えて、自らの研修課題を設定し取り組んでいる。

[課題] 特別な教科道徳、外国語教育等、教職員全体の授業力向上、教員力の育成を図る組織的なOJT、Off-JTに加え、タブレット端末を積極的に取り入れての授業の構築と自らの教員としての資質の向上を図る。

◎保護者・地域について

[よさ] 保護者及び地域の方々は、要望も多様化し本校の教育に対して関心がある。保護者と教職員の会、学校応援団、避難拠点連絡会を介して協力的積極的に関わろうとしている。

[課題] 教育に関心がある＝多様な要望、期待度が非常に高い。多様な要望等に応えるべく保護者と教職員との活動を更に活性化させ保護者・地域参加型の具体的な教育活動、立案の充実を図る。

≪前年度の成果と課題≫

○自ら考え、意欲的に取り組む児童の育成：学校評価からも教育活動すべてにおいて積極的に、「伝える力」を身に付けるよう「対話力」を鍛え上げてきた。優しい言葉遣いの推奨も地域全体に呼びかけ実践してきた。今年度も、児童自らの優しい言葉で相手に伝え、思いやる心と「恕の心」を育ませる。

○自ら変革する教師の育成：小中連携・校内研究の研鑽を生かし教師の授業力向上、資質向上の取組を図ってきた。周年行事を実施したことを糧として、伝統を継続する意識が高まってきている。さらに質を高め強固なものとするためにOJT、Off-JT を駆使し人材育成を図る。

○学校・家庭・地域による協働の推進から信頼ある学校への構築：小中連携の枠組みが小中4校での取り組みである。近隣の保育園・幼稚園、中学校、高等学校と連携して、更に地域との密着を図り、信頼度を深めていく。

4 重点的な取組事項					
番号	内容	実施期間(長期的経営)			
		令2	令3	令4	令5
1	人権を尊重する教育	○	○	○	○
2	児童一人一人の可能性を引き出し、伸ばせる教育(児童に夢を育む教育)	○	○	○	○
3	幼保小中連携を深め、15カ年を見通した教育を推進する。	△	○	○	○
5 令和3年度の重点目標					
重点的な取組事項-1		人権を尊重する教育			
A 今年度の成果目標		達成基準			
<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の中心に児童を捉え、児童の人権を尊重し守る教育を推進する。言葉遣い・心の豊かさを更に推奨し、教育公務員としての資質向上を図る。 教職員は自己研鑽を目標に、教員としての専門性の習得、資質向上、総力をあげその力をもって信頼される学校作りをめざす。 教育目標とめざす児童像の具現化に努め、「子供の夢を育む」をめざす。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然予防、早期発見、解決の徹底を図る。 児童理解に努め不登校・不適応0をめざす。 学校評価アンケートで学校が好きな項目を9割以上とする。 			
B 前年度の取組内容					
項目	具体的な方策				
・人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の中心に児童を捉え、特別な教科「道徳」の充実を図った。 心を豊かに整えるために「恕の心」の育成「一人一改革」をテーマに児童と接する機会を多くもち、情報のアンテナを高く掲げ多方面摂取し、一人一人の良さや個性・特性を生かし伸ばす努力を行った。(コミュニケーション能力の向上と児童理解) 				
・言語表現活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、学級では特色ある教育活動(自ら考え、学び、調べ、伝え、伝わる表現等の言語力を生かした)を工夫し自立する児童を育成した。 「聴き方名人」「話し方名人」を全学年統一化し、共通理解として進めた。 				
C 前年度の成果と課題					
成果	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教科「道徳」の充実、優しい言葉遣い、心を豊かにする「恕の心」の育成、「一人一改革」を中心に児童理解を努め、推進・展開することで、コミュニケーション力が向上した。 「聴き方名人」「話し方名人」の統一化により、児童の落ち着き度が向上した。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実を図り、幼保との接続ポイントを探り、生育段階に対応して基本的な生活習慣の確立を求めてきた。自分の思いや考えを積極的に伝える力や表現(言語活動を通じて)する力が不足ぎみな児童が見受けられる。関係機関と家庭とも連携しこの割合を更に減少させることが課題。 				
D 今年度の目標実現に向けた取組					
項目	達成基準	具体的な方策			
・人権教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、言葉による暴力の予防と早期発見、解決 特別な教科「道徳」での主体性をもった児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解を充実させ、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、特別支援教育専門員、学校生活支援員との連携を密に行う 特別な教科「道徳」を生活に即した指導へと展開する。 コロナ禍の中、他人を思いやる心を更に推進し、世の中、全体を見回せるゆとりを大切に今の自分たちで何ができるのかを各学年の段階で考えさせ、地域と共に方向性を見出させる。 			
・言語表現活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「伝え合う」を基盤とした「聴き方名人」「話し方名人」の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の生育段階を鑑み、縦割り教育「なつくもスマイル」や全校集会、全校で取り組む行事を活用して異年齢集団で思いやりの心を育ませる。交流教育が困難な中、ITC機器関連を屈指し、交流を深めることを模索する。 『「恕の心」を育て、美しく優しい言葉遣いを伝え・伝え合うを』テーマとして継続する。 			

重点的な取組事項－２		児童の可能性を引き出し伸ばせる教育（児童に夢を育む教育）	
A 今年度の成果目標		達成基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・現社会情勢の渦中、児童の達成感・成就感を抱かせるように工夫する。 ・児童一人一人が秘めている可能性を引き出し伸ばせる学校作り ・体験学習を通し、互いに認め合い、高め合う経験をもたせ多様な人間関係を育てる。 ・規則を守ることの意義を理解させ、自らを律することのできる児童を育てる。（授業時間の始終の徹底＝授業時数の確保） ・情操教育の充実（学芸会・なつのくも音楽会・ミニコンサート・音楽集会・展覧会等）を通じて心に潤いをもたせる。 ・教師の授業力を高め、児童が分かる授業を実践する。（タブレット端末、ITC教育、プログラミング教育を屈指して） 		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な体験学習を味わわせる。 ・学校への満足度 95%以上をめざす。 ・運動会・学芸会・展覧会の工夫ある実施。 ・月一回の音楽集会と各学年毎のミニコンサート実施。（音楽専科と各学年の連携） 図画工作作品の校内展示 ・適正な年間指導計画・評価計画に基づく確かな学力の定着で6割以上の児童が学級における確認テストで9割を超える得点をめざす。 ・タブレット端末を使用した視覚的効果と直接的操作による理解度の達成を図る。 	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	具体的な方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、生育段階に適應する言語活動の充実を図る。 ・タブレット端末の活用。 ・プログラミング教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聴き方名人」「話し方名人」の表記を発達段階に合わせ学年ごとに明確にし、「伝え方名人」にも言及する。 ・読書活動として年間に5冊以上の本を読破させる。 ・タブレット端末を用いたICT教育及びプログラミング教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を押さえ、一人一人の課題に正対する姿勢を育てる。 ・自分の考えを的確に伝える力を身に付けさせ個々の学力を定着し、学力向上を目指した学習支援に取り組む。（放課後未来塾等の活用） ・ICT教育を推進するにあたり教員の研修を充実させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全で命を尊び、豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝会時、学校だよりの表紙にて「美しい言葉」「挨拶」を基本とした「怒の心」「やさしい心」を育てる内容を継続して講話する。 ・校舎内外の緑化活動を実施。 ・危機管理を徹底的に把握し、児童の安全を図り事故からの未然防止を念頭に事故0をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい言葉遣いで教職員と児童、児童と児童間で豊かな心の交流に努め、地域、家庭と連携して怒の心を育てる。 ・報告・連絡・相談を徹底し、教職員間の連携を密にし、災害・事故等への適切な対応ができる校内体制及び教育計画の再構築を行う。 ・掲示教育の充実を図る。 ・避難拠点連絡会と密なる連携を図り危機管理の事案に対し、予防・早期対応・解決に取り組む。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解、人権教育に関わる活動を充実・定着させる。 ・基礎体力の向上を図る。（スポーツテストの数値を向上させる。） ・外国語教育の充実 ・アスリートの招聘 	<ul style="list-style-type: none"> ・会合の内容、目的を明確にする。 ・アスリートを招聘して、コロナ禍での生活の中、競技へ参加をめざす具体的な努力を感得させる。 ・外国語活動及び授業を通じてALTと連携を廻り国際理解・人権教育に関わる活動を充実させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの厳正・信頼される学校づくり。 ・学校だよりの発行。 ・ホームページの随時更新。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス事故0を徹底しめざす。 ・月1回の発行 ・本校独自のタブレット端末の有効活用を探る。 ・行事、日々の出来事を取り上げ随時更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員は、児童・保護者・地域との信頼関係に基づいた厳正なサービスを遂行する。 ・研修を充実し、定期的に研修を実施する。 ・教職員は教育の専門職として進んで研修に励み、その資質向上を常に心掛け、保護者、地域からの信頼を得られるよう教育実践を積み重ねる。 	

重点的な取組事項－3	小中連携（小中連携＋保育園、幼稚園との連携を充実し、15年間の流れを踏まえ授業改善を進める、円滑な連携・接続を推進し教師の指導力向上を図る。）	
A 今年度の成果目標	達成基準（コロナ禍の状況により変動あり）	
<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中15年間の流れを踏まえ教科等の系統性を捉えた連携を礎に教科の縦断的、横断的な視点に立ち授業改善を進め、円滑な連携・接続を推進し学力向上を図る。 ・小中連携を基盤に教師の指導力を向上させ、9カ年の接続のポイントを把握し学力を定着させる。 ・年間指導計画・評価計画に基づく授業時数の確保 ・授業の始終時間の厳守。（普通教室、特別教室間の移動時間の適正化） ・児童の確かな学力・体力の向上と教師力の向上を図る。 ・幼稚園、保育園との教員同士の連携、交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携研修＝年4回（合同） ・小中連携研究授業＝年2回 ・連携推進委員会研修＝年5回 ・児童生徒による挨拶運動＝年2回 ・文化的交流＝連携校の児童生徒の活動状況を各校の掲示板等で交流を図る。 ・体育的交流＝運動会の準備（中学校の協力） ・保育園、幼稚園の園児、幼児と児童との交流。 ・教科研修：年6回 	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中連携研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修(全体)：年4回 ・研究授業：年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続のポイントを各研究授業及び年次に関係する研究授業の指導案に取り込む ・15年間の指導方法・評価計画の検討 ・学力定着及び向上に結び付く接続のポイントを授業指導に結び付ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じて小学校を中心とした中学校への接続のポイントを定着させ意欲的な学習習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と相互の授業研究＝年4回全教科で取り組む ・中学校見学、幼保の見学＝年1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上・定着を図り、学年相応の向上をめざす。 ・中学校の教科に合わせ、教科毎の連携研修とする。（特に外国語教育＋理科教育）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上を目指した学習支援の充実（連携を軸とした支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの公開授業を通して指導力を高める＝年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・9カ年を見通した小中連携交流の基盤を通じて授業力及び教師力向上をめざす。 ・授業研究により授業力の向上をめざす。
<ul style="list-style-type: none"> ・組織力のさらなる向上（OJT、Off-JTを駆使し人材育成を図る） ・働き方改革等によるワーク・ライフ・バランスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師年6回を招聘する。 ・若手教員の育成 ・教職員のワーク・ライフ・バランスによりモチベーションを向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJT委員会を活用充実させ、新任、若手教員の育成を図る。 ・年次研修、教科別研修への参加（Off-JT） ・週一回のノー残業デーを設定し教員個々のライフワークを大切にする。学年ローテーションで定時退勤を推進。 ・主幹・主任教諭からのOJTを実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・適性な年間指導計画及び評価計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週週案を提出(100%) ・授業観察及び助言指導 ・標準授業時数の100%確保、適正な評価評定規準の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進捗状況を把握し、教育課程を遂行させる。 ・教育課程の進行および教育活動の改善・助言・指導を行い、授業の進捗状況を把握し、計画遂行の徹底を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教育（自己肯定感、有用感の向上に寄与する。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ根絶 ・不登校、不適應への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り学級方式で、学校行事等におけるリーダーの育成を図る。 ・異年齢集団活動の推進（なつくもスマイル） ・優しい言葉、怒の心の常道化。
<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上をめざす（コロナ禍で低下した体力を戻す） 	<ul style="list-style-type: none"> ・巧緻性と持久力を高める ・中距離走、縄跳びを体育授業外の時間でも推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・巧緻性：共通のトレーニングとしてコーディネーション運動を活用して体力向上を図る。 ・持久力：全校持久走大会、長縄大会を実施。